

特集

「学生との年金対話集会」帝京大学で開催

2022年7月15日、帝京大学（八王子キャンパス）のSORATIO SQUAREにおいて、厚生労働省年金局が主催する「学生との年金対話集会」が開催され、経済学部経営学科・上田ゼミ（上田憲一郎教授）の学生16名（男子13名・女子3名）が参加しました。集会は、第1部「全体講義」と第2部「質疑応答」の構成で進められました。



会場となった帝京大学
SORATIO SQUARE

【第1部・全体講義】 講師：伊藤憲昭・厚生労働省年金局年金課課長補佐

「わたしの年金とみんなの年金」をテーマに年金制度の概要、年金給付の仕組み、制度改正の経緯などについて講義が行われました。講義では、「年金は必要か」「年金はいくらもらえるのか」「将来、年金制度はどうなるのか」「現役世代の負担はどこまで重くなるのか」といったよくある質問を学生とともに考えながら進められました。



講師の伊藤憲昭・厚生労働省年金局
年金課課長補佐

● 年金は必要か

「年金は必要か」といった疑問については、「自分は何歳まで生きるか」「老後にどれくらいお金がかかるか」「今の物価が将来どう変わるかを予想できるか」といったことについてデータを紹介しつつ、予測が難しいことが多いとされました。公的年金は、予測できない不確実な未来において、高齢期の生活費を支える大事な要素であり、障害年金や遺族年金と合わせて、若いときから亡くなるまでの一生涯の「保険」であることが伝えられました。

● 年金はいくらもらえるのか

国民年金と厚生年金保険について、それぞれ保険料負担（支払額）と年金給付（受取額）の計算方法の説明があったうえで、2022年度の国民年金の保険料は16,590円で老齢基礎年金は月額約6.5万円、厚生年金保険の保険料は「その月の標準報酬×18.3%」で老齢厚生年金は夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額で月額約22.0万円であることが示されました。

● 将来、年金制度はどうなるのか

2050年には約1.3人の現役世代で高齢者1人を支えなければならないと予測されています^{*}。年金財政は個人が支払った保険料を積み立てておき、高齢になった時に年金に充てる積立方式ではなく、現役世代が負担する保険料を年金受給者に充てる賦課方式をとっています。しかし、年金給付には、保険料に加え、年金積立金や国庫負担も充てられるため、現役世代の人口が減っても、年金が破綻する心配はないという説明がなされました。

^{*}総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2017年）より。

● 現役世代の負担はどこまで重くなるのか

現役世代の負担が大きくならないよう、保険料の上限を固定した上で、保険料、積立金と国庫負担による収入の範囲内で、給付水準の調整を行うマクロ経済スライドという仕組みが導入されています。こうした年金財政の収支は少なくとも5年に1回行われる財政検証により、財政状況をチェックしていることが伝えられました。



講義を受ける学生の皆さん

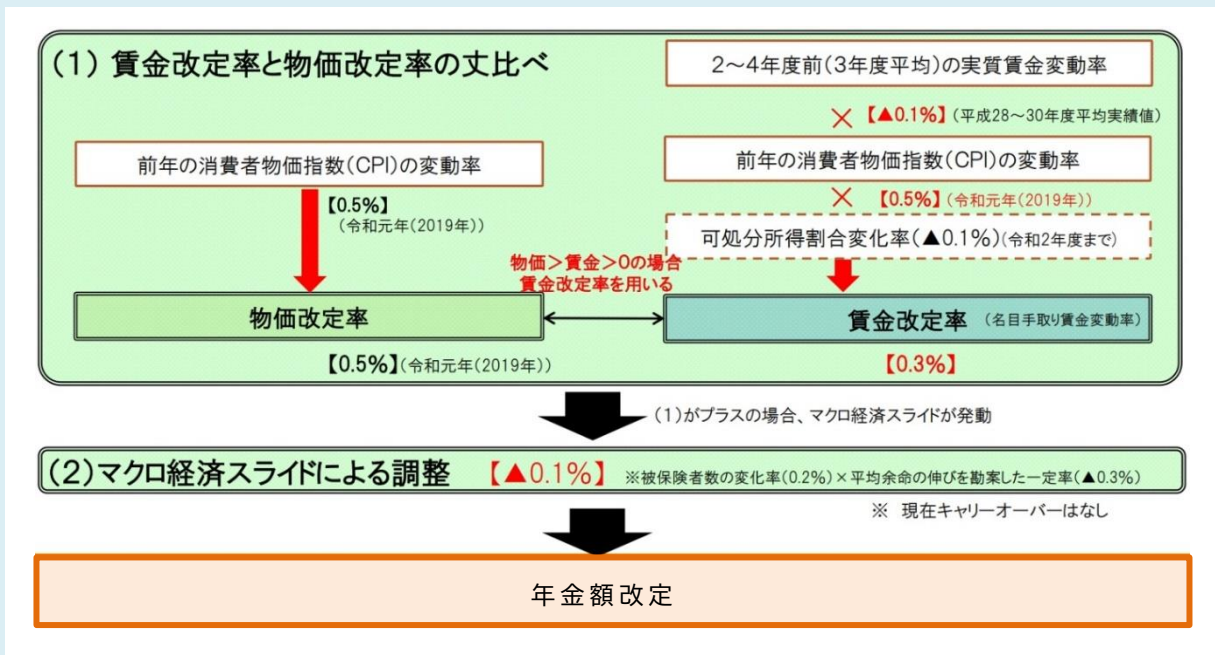
年金財政が縮小する要因と対策

- ① 長生きする人口が増えること
 - ➔ 支払われる年金額が増えすぎないように自動調整する（マクロ経済スライドの発動）。
- ② 働く人口（現役世代）が減ること
 - ➔ 高齢者や女性などがより働きやすい環境をつくり、保険料収入を増やす。
- ③ 経済状況（賃金や物価）の規模が低下すること
 - ➔ 日本経済の規模が拡大すれば、年金額も大きくなる。

マクロ経済スライドの仕組み

毎年の年金額は、賃金・物価改定率（1）からマクロ経済調整率（2）を差し引いた改定率により決定されます。なお、マクロ経済スライドは、賃金・物価改定率がプラスの時に発動します。

<図>マクロ経済スライドによる調整（2020年の場合）



● 総括

自分の将来を考えると、「どんな仕事をしたいか」「何歳まで働きたいか」「退職後はどんな暮らしをしたいか」を考えることは大きなポイントとなります。そのなかで、老後を支えるものとして公的年金を基本として、その他、私的年金、長く働くこと、資産運用が選択されます。

若いうちから、自分自身の年金について、どれくらいもらえるのか「=わたしの年金」を考え、さらにそのために年金制度の安泰「=みんなの年金」を考えることは重要で意味のあることであることが伝えられました。

【第2部・質疑応答】

質疑応答は、8名の学生に2名の厚生労働省職員と上田教授で2グループに分かれて行われました。

- Aグループ：学生8名、上田憲一郎教授、厚生労働省職員2名（上祐英樹・数理第二係長、菊地英明・年金広報企画室係長）
- Bグループ：学生8名、厚生労働省職員3名（伊藤憲昭・年金課課長補佐、添田秀幸・年金広報企画室主査、三輪映里花・事業管理課厚年管理係）



Aグループの皆さん



Bグループの皆さん

学生の皆さんからは下記のような感想・質問が積極的に寄せられました。

- 年金制度を知ることのメリットは何か（給付額がすべてではないのか）。
- 若者に向けた動画をもっと魅力的なものにしてほしい。
- 年金や資産運用など、「お金」に関する教育の機会をもっと増やしてほしい。
- マクロ経済スライドが発動するとき・しないときは具体的に何によって判断されるのか。
- 所得代替率はどのような仕組みになっているのか。
- 「老後、生活資金が2,000万円不足する」という金融庁の見解についてどのように考えるか。
- 年金積立金は、今後増えることはないのか。
- 国民年金保険料は下がることはないのか…学生にとって、保険料負担は大変厳しい。
- 学生特例納付は利用したほうが良いのか。
- 生命保険と比較して年金制度はどのようなメリットがあるのか。
- 国民年金保険料を前納すると、どれくらい安くなるのか。
- 繰下げて受給すると、どれくらい年金額は増えるのか。